

串間市文化財調査報告書第22集

市内遺跡発掘調査報告書

2001

宮崎県串間市教育委員会

市内遺跡発掘調査報告書

蛭牟田遺跡
高松津口地点
唐人町・池ヶ迫遺跡

2001

宮崎県串間市教育委員会

序

串間市内には各時代各種の埋蔵文化財が数多く点在しています。串間市教育委員会ではこれらの文化財を先人の残してくれた貴重な遺産と捉え、後世に伝え残すことが現代を生きる者の責務であるとの認識に立ち、その保護と活用に努めておりますが、各種の開発事業・造成工事等が埋蔵文化財に影響を与える場合が多く、文化財保護と各種事業との調整が慢性的な課題となっています。このような状況の中、当教育委員会では各種事業が市内に分布する埋蔵文化財に影響を与えることが危惧される場合には事前の試掘調査ないし確認調査を実施し、埋蔵文化財の有無・範囲・性格等を把握して文化財保護のための協議資料としています。

本年度は、携帯電話無線基地局建設設計画及び串間市国民健康保険病院移設設計画に伴う數地点の調査を行い、その成果を当報告書として刊行することとなりました。当報告書が今後の文化財保護への理解に役立つとともに、生涯学習・学校教育等の場において広く活用されれば幸いに存じます。

最後になりましたが、調査を実施するにあたってご協力いただきました関係諸機関並びに市民の皆様に対して、心より感謝申し上げます。

串間市教育委員会

教育長 岩下斌彦

例　言

1. 本書は、宮崎県串間市教育委員会が国県の補助を得て平成12年度に実施した市内遺跡発掘調査の報告書である。
2. 発掘調査は、市内に所在する周知の遺跡並びに埋蔵文化財が包蔵される可能性のある地点のうち、大字高松字蛭牟田所在の蛭牟田遺跡ほか2地点について試掘調査・確認調査を実施した。
3. 発掘調査は、串間市教育委員会が主体となり、同主事宮田浩二が担当した。
4. 調査組織は以下のとおりである。

調査主体 串間市教育委員会

教　育　長	岩　下　斌　彦
生涯学習課長	山　下　泰　文（総括）
生涯学習課長補佐	村　田　満　郎（総括補佐）
文化振興係長	武　田　敦　大（調整・庶務）
主　　事	宮　田　浩　二（調査・執筆・編集）
発　掘　作　業　員	江平里美、川崎健治、川崎知子、隈本スズ子、鈴木スガ子、那須重夫、中村光子、中野郁美子、野辺ヨシ子、水元栄子、矢野アキ子、吉田俊枝、渡会美久代
整　理　作　業　員	川崎知子、中村光子
調　査　指　導	宮崎県教育委員会文化課

5. 遺跡及び調査地点の名称は小字ないし通称による。
6. 報告書抄録中の緯度・経度は国土地理院発行「1:5,000国土基本図」による。
7. 出土した遺物は串間市教育委員会で保管している。

目 次

本文 目 次

第Ⅰ章 蛭牟田遺跡の調査

第1節 調査に至る経緯	1
第2節 遺跡の位置と環境	1
第3節 調査の内容	1

第Ⅱ章 高松津口地点の調査

第1節 調査に至る経緯	4
第2節 調査地点の位置と環境	4
第3節 調査の内容	4

第Ⅲ章 唐人町・池ヶ迫遺跡の第1次調査

第1節 調査に至る経緯	6
第2節 遺跡の位置と環境	6
第3節 調査の内容	7 ~ 10
第4節 小結	10
報告書詳録	16

挿 図 目 次

第1図 蛭牟田遺跡位置図	1
第2図 蛭牟田遺跡概要図	1
第3図 蛭牟田遺跡層序模式図	2
第4図 高松津口地点位置図	4
第5図 高松津口地点概要図	4
第6図 唐人町・池ヶ迫遺跡及び周辺遺跡位置図	6
第7図 唐人町・池ヶ迫遺跡概要図	7
第8図 唐人町・池ヶ迫遺跡層序模式図	7
第9図 唐人町・池ヶ迫遺跡トレンチ配置図	8

図 版 目 次

図版1 蛭牟田遺跡トレンチ状況写真	2
図版2 蛭牟田遺跡出土遺物写真	2
図版3 高松津口地点トレンチ状況写真	5
図版4 唐人町・池ヶ迫遺跡トレンチ状況写真	11~14
図版5 唐人町・池ヶ迫遺跡出土遺物写真	15

第Ⅰ章 蛭牟田遺跡の調査

第1節 調査に至る経緯

当遺跡の調査は携帯電話無線基地局の建設計画に起因する。平成12年8月16日付けで当地点についての文化財所在有無の照会が業者よりあった。計画地点は遺跡として周知されてはいなかったが、踏査の際に遺物の散布が認められること、地形的に埋蔵文化財の存する可能性が大きいことなどから試掘調査が必要であることを回答し、調査を実施することとなった。調査は平成12年8月28日から29日にかけて実施した。

第2節 遺跡の位置と環境

調査地点は串間市大学高松字蛭牟田946番である。大字高松は串間市域の西端にあたり鹿児島県曾於郡志布志町と接する県境の地区で、地点は志布志湾に突き出した赤鼻と称する出崎の中央部に形成された小丘陵上に立地する。小丘陵の周辺は砂地で畑地ないし宅地として土地利用されているが、海進等による時期的な地形の変化によっては当丘陵のみが遺跡を立地させる条件下にあったものと思われる。



第1図 蛭牟田遺跡位置図 (1/25,000)

第3節 調査の内容

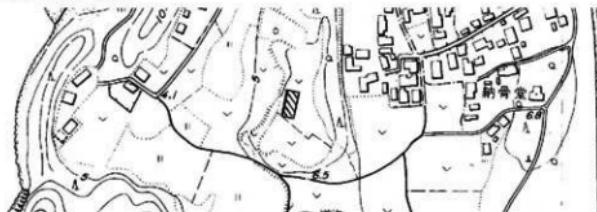
調査対象地は丘陵上の西端の畑地で面積は50m²である。調査はここに2本のトレンチ (2m × 3 m) を東西長軸に設定して実施した。当地における層序は第3図のとおりで、各トレンチの状況は以下のとおりである。

1号トレンチ

厚さ20cmの表土の下層には暗褐色の造成土が見られ、この下層のⅢ層黒褐色土及びⅣ層砂質黑色土が遺物を包蔵する。これより下層はV層アカホヤ、VI層暗褐色土となるが、アカホヤはトレンチの東側でやや平坦に残存するが西側では消滅する。包含層は丘陵の縁へ向けて急激に傾斜し、傾斜に伴って西側で厚く堆積しており、遺物量もこれに比例する。遺物では土器片及び礫が相当量出土し、土器の時期は縄文後晩期と思われる。また、土層の状況から遺物は丘陵の中央部より移動した可能性も考えられる。なお、遺構は検出されていない。

2号トレンチ

1号トレンチの北側に設置した。3層に分層される搅乱土の下層は二次堆積のアカホヤが厚く、80cmほどを掘り下げたが、その下層を見ることはできず、遺物の出土、遺構の検出ともに認められなかった。



第2図 蛭牟田遺跡概要図 (1/5,000)

I	I層；表土、厚さ約20cm
II	II層；暗褐色造成土、厚さ約20cm
III	III層；黒褐色土（包含層）、5~10cm
IV	IV層；砂質黒色土（包含層）、10~30cm
V	V層；アカホヤ
VI	VI層；硬質暗褐色土

第3図 蛭牟田遺跡層序模式図

図版1 蛭牟田遺跡トレンチ状況写真



遺跡遠景



遺跡近景



1号トレンチ



2号トレンチ

図版2 蟻牟田遺跡出土遺物写真



第Ⅱ章 高松津口地点の調査

第1節 調査に至る経緯

当地点の調査は携帯電話無線基地局の建設計画に起因する。平成12年9月19日付けで当地点についての文化財所在有無の照会が業者よりあった。計画地点は遺跡として周知されていなかったが、当地域の歴史的な背景と地形の現況から試掘調査が必要であると判断してその旨を回答し、調査を実施することとなった。調査は平成12年10月17日に実施した。

第2節 調査地点の位置と環境

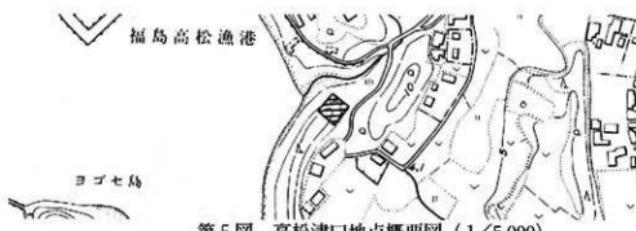
調査地点は串間市大字高松字蛭牟田999番である。大字高松については第Ⅰ章に述べたが、地点は高松地区内に存する高松海水浴場隣接の丘陵状防潮林内にある。当地は地点名に使用した通称が示すように、中世から近世にかけて天然の良港として栄え、特に藩政時代には津口番所が置かれた歴史的背景を持つ。調査地点を含む防潮林は当時の廻船等が着岸した海岸に隣接する。



第4図 高松津口地点位置図（1/25,000）

第3節 調査の内容

調査対象地は防潮林内の面積225m²である。調査はここに3本（1m×3mを1本、1m×1mを2本）のトレーナーを設置して実施。いずれのトレーナーにおいても薄い腐葉土の下層は砂質の褐色土が約70cmの厚さで堆積しており、その下層は径30cm程の礫で構成される礫層となる。調査は礫層表面の検出まで止め、各層とも遺物の出土、遺構の検出は認められなかった。また、礫にも人工的な加工の痕跡は認められず、試掘調査の範囲では構築物であるか否かの確認はできなかった。

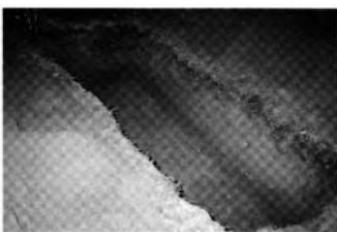


第5図 高松津口地点概要図（1/5,000）

図版3 高松津口地点トレンチ状況写真



調査地点遠景



1号トレンチ



2号トレンチ



3号トレンチ

第Ⅲ章 唐人町・池ヶ迫遺跡の第1次調査

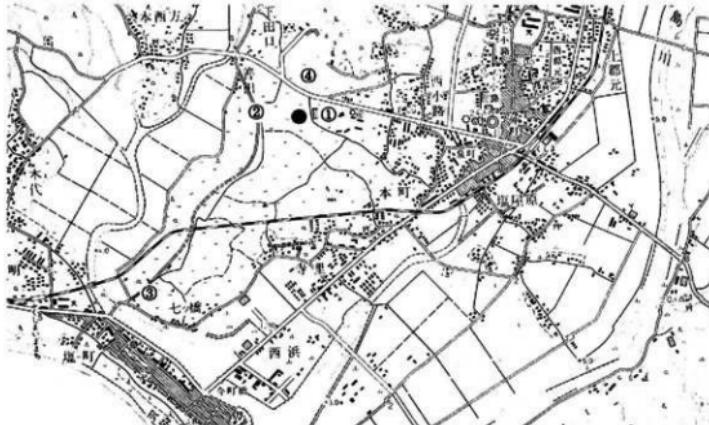
第1節 調査に至る経緯

当遺跡の調査は串間市健康保険病院建設設計画に起因する。大字西方字唐人町及び字池ヶ迫を計画予定地とするにあたって、当該地域において文化財が所在する場合の取扱等について協議されていたが、串間市教育委員会では計画地の立地する台地（通称：善田原）には多くの遺跡が散布し、計画地内においても地形上、埋蔵文化財の所在する可能性があることから試掘調査が必要であることを回答してきた。これを受けて平成12年11月15日付で串間市病院建設委員長より計画地内における文化財有無の照会があり、調査を実施することとなった。なお、計画地の現況は全て細地で、作付状況等の事由により一時期に全域を調査することは叶わないので、今回は可能な範囲の調査となり、当報告書においては、第1次調査として報告するものである。試掘調査は平成12年11月21日から12月8日にかけて実施した。

第2節 遺跡の位置と環境

調査対象地は串間市大字西方字唐人町及び字池ヶ迫に所在する。串間駅から西へ1kmほどの地点で、福島川と善田川の間に形成された善田原と呼ばれる台地のほぼ北端に当たる。善田原台地は調査地周辺より、志布志溝に接近するあたりまでを範囲とする標高約20mの広大なシラス台地で、これまでには錢龟塚（県教育委員会、昭和28年）、広域道建設事業に伴う唐人町遺跡（県教育委員会、昭和62年～平成元年）や崩先地下式横穴群（県教育委員会、平成2年）、市営陸上競技場建設に伴う東堀遺跡（市教育委員会、平成7年）等の発掘調査事例がある。

錢龟塚は今回の調査地の北東側に隣接して在した墳墓で、墳丘上より扁平な板石を平積みにした石槨状遺構が検出され、丸玉・銀環・小玉・銅器・鐵族・須恵器片等が出土している。唐人町遺跡は今回の調査地の西側に当たり、竪穴住居跡8軒が検出され、甕・壺・高环等が出土した弥生時代終末から古墳時代初頭にかけての遺跡である。崩先地下式横穴群は最も志布志溝寄りの台地先端部に存し、調査では地下式横穴11基・石蓋土壙墓1基が調査されている。東堀遺跡は今回調査地の北側に隣接し、縄文時代後晩期の上器片が出土している。この他、平成11年度に実施した別府ノ木遺跡の調査では縄文時代草創期の帶隆土器が出土し、「全国遺跡地図」には西方貝塚の所在も記載されている。また、昭和8年に「福島町古墳」として県指定を受けた古墳のうちの2基は当台地上に存した。これらの事例が示すように当台地は遺跡を多く立地させ、串間地方の歴史を探る上で欠くことのできない地域となっている。



●唐人町・池ヶ迫遺跡 ①錢龟塚 ②唐人町遺跡 ③崩先地下式横穴群 ④東堀遺跡
第6図 唐人町・池ヶ迫遺跡及び周辺遺跡位置図 (1/25,000)

第3節 調査の内容

調査対象面積は約19,500m²で、第1節に述べたような事情により調査可能な畠からトレンチ（1m×3m標準）を設定して調査を開始し、結果として28本のトレンチ調査となった。対象地は北部（勿体森運動公園側）で最も標高が高く、南方向へむけて比高差約1mで落ちてゆく3ステージに分けられる。調査は標高の最も低いステージから着手し、各トレンチの設置地点は第9図に示したとおりである。調査地内における基本層序は第8図に示し、各トレンチの状況は以下のとおりである。以下、文章中の層表記ローマ数字は第8図の数字と一致する。



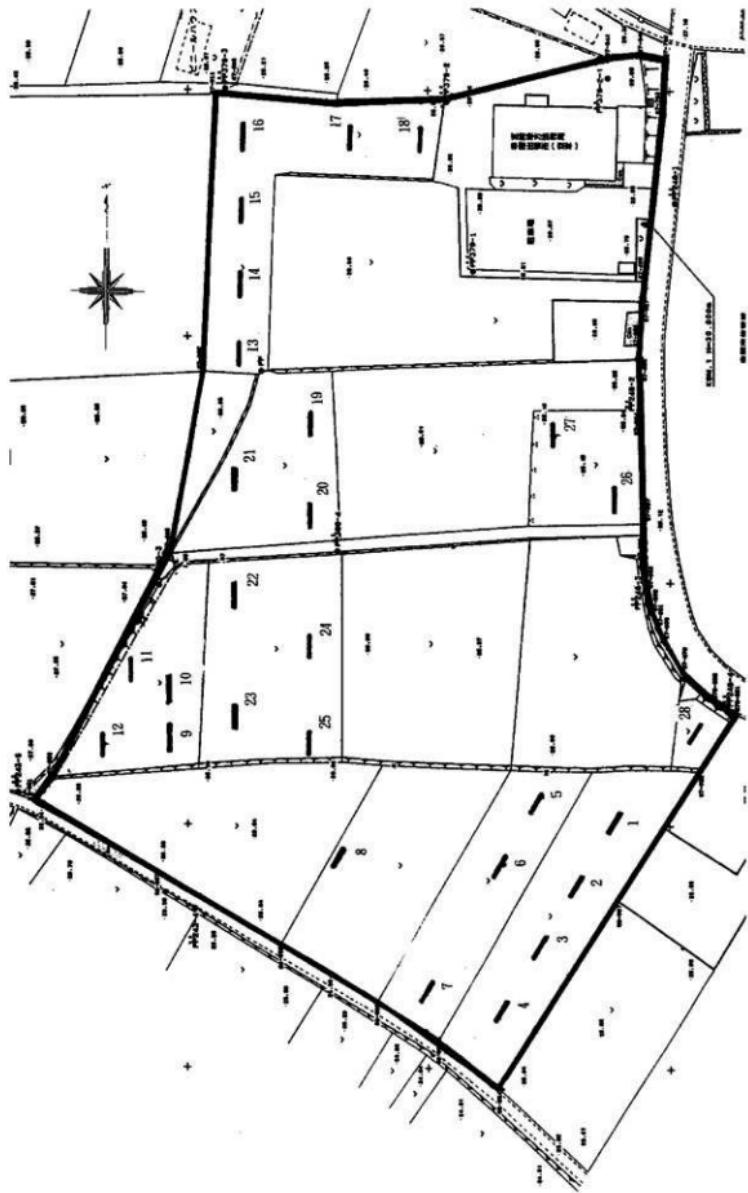
第7図 唐人町・池ヶ迫遺跡概要図 (1/5,000)

I a	I層；表土。近現代と思われる客土ないし造成土はこれに含め、可能な場合にはa～eの3層に分層。各時代・各種の遺物を包含する。
I b	II層；ゆるい黒色土で土師器や土師質土器などを包含する。削平を受けて消滅している地点もあるが、おおむね残存する。
I c	III層；やや明るいゆるめの黒色土で、縄文時代晚期から弥生時代にかけての遺物を包含する。当地における主たる包含層である。
II	IV層；ゆるい黒色土で地点によっては少量の遺物を包含する場合があるが、ほとんどの地点では無遺物。
III	V層；御池ボラを含む黒色土で、地点によって濃淡がある。無遺物。
IV	VI層；アカホヤ火山灰層、二次堆積と思われる。
V	VII層；硬質暗褐色土。
VI	VIII層；硬質褐色土。
VII	IX層；薩摩火山灰塊を含む褐色土。
VIII	X層；硬質褐色土。
IX	
X	

第8図 唐人町・池ヶ迫遺跡層序模式図

第9図 唐人町・池ヶ追遺跡トレンチ配置図 (1/500)

-8-



1号トレンチ

I層からⅤ層までを調査。I層は細分できず、その下層はⅢないしⅣ層となる。遺物はI層中の陶器類のみで造構は検出されていない。旧地形はほぼ平坦。

2号トレンチ

Ⅵ層までを調査。I層の細分は不可、その下層はⅢないしⅣ層となり、VI層表面で不整形の落込が見られるが造構ではないと判断して掘り下げる。遺物はI層中のみ。旧地形はほぼ平坦。

3号トレンチ

Ⅶ層までを調査。II層で土器質上器、VII層で上器小片1点。造構は認められない。旧地形は若干南西へ傾く。

4号トレンチ

Ⅶ層までの調査。I層が厚く、その直下のⅢ層で突帯文を施す口縁部ほか土器が出上するが、造構は認められない。旧地形は若干南西へ傾く。

5号トレンチ

Ⅶ層までの調査。I層の直下はⅢ層で土器小片を少量含むが、造構は認められない。旧地形は若干南西へ傾く。

6号トレンチ

VI層までの調査。I層は厚く、Ia～Icの3層に分層できる。VI層表面で造構プランの一辺を認め、埋土中より土器が出土するが、造構の性格は不明。旧地形は若干南西へ傾く。

7号トレンチ

VI層までの調査。3枚に分層できるI層の直下はⅢ層で土器を包含する。VI層表面でピット1基を検出。旧地形は南西へ傾く。

8号トレンチ

VI層までの調査。I層の直下はⅢ層で少量の遺物を包含する。旧地形はほぼ平坦。

9号トレンチ

VI層までの調査。I層の直下はⅢ層で遺物を包含するが、トレンチ大の甘諸貯蔵穴（長方形）に重なってしまったため成果は少ない。旧地形は南西へ傾く。

10号トレンチ

VI層までの調査。I層の直下はⅢ層。VI層表面で4基のピットを検出、うち2基から土器が出土。V層に破壊や攪乱は認められず、ピットは5層底部から掘り込まれた可能性がある。

11号トレンチ

X層までの調査。薄いI層の直下は部分的に残存するVI層で、VII層上位までが削平を受けている。VII層中よりピット1基を検出。遺物は出土していない。旧地形は南西へ傾く。

12号トレンチ

VII層までの調査。I層の直下はV層となり、VI層の残存状況も悪い。切土の上に客土が施されている。旧地形は南西及び西へ傾く。

13号トレンチ

4層ほどに分層できる客土ないし造成土が約90cmの厚さで堆積しており、直下の黒色土からは礫のまとまりが検出され、スリバチ・貝殻が出土する。旧地形は南西へ傾く。

14号トレンチ

東西方向に3条の段差のある硬化面が検出され、その間には小溝状の造構が認められる。硬化面には時期差が考えられ、下層では弥生上器の上器溜りが見られた。造構の検出状況が複雑で詳細にはならないが、各時期における複数回の土地利用がうかがえる。

15号トレンチ

VI層までを調査。I層の直下はⅢ層で、Ⅲ層は中位まで削平されているが、I層とⅢ層の境界で東西方向の硬化面（幅55cm）1条を検出する。これを残してトレンチの南半分を掘り進め、VI層表面では不整形ながら土器小片を含むピット1基を検出。旧地形はほぼ平坦。

16号トレンチ

VI層までの調査。I層の直下はⅢ層ないしⅣ層が薄く残存して遺物を含む。V層表面でピット1基（径35cmの円形）が検出されたため、これを残してトレンチの北半分を掘り進め、VI層表面で小ピット1基（半17cmの円形）を検出する。旧地形は若干南へ傾く。

17号トレンチ

VI層までの調査。VI層表面で遺構プランの一辺を検出し、埋土を除去すると深さは検出面から10cmほどで、埋土中からは疊2点が出土した。旧地形は若干南へ傾く。

18号トレンチ

X層までの調査。I層の直下はIII層ないしIV層。トレンチの北端、V層表面でピット1基（径26cmの円形）を検出。これを残して掘り進めX層までを調査するが無遺物。旧地形はほぼ平坦。

19号トレンチ

VI層までの調査。I層は3層に分層が可能で、以下の土層の残存状況も良く、II～IVの各層で遺物を包含する。遺構の検出は認められず、旧地形は若干南へ傾く。

20号トレンチ

V層までの調査。客土ないし造成土が厚く、II～IV相当層を調査したが、分層はできなかった。遺構の検出も認められない。

21号トレンチ

VI層までの調査。客土ないし造成土が厚く、その底部には部分的にシラスが混入する。以下の黒色土は薄く残存し分層はできない。VI層表面で小ピット1基（径15cmの円形）を確認。旧地形はほぼ平坦。

22号トレンチ

VI層までの調査。包含層に相当する黒色土（II～IV層）は薄く残存し、分層はできない。VI層表面ではピット2基（いずれも径25cmの円形）を検出。旧地形は若干南へ傾く。

23号トレンチ

VI層までの調査。I層の直下はIII層ないしIV層で土器や打製石斧を包含する。遺構の検出は認められず、旧地形は若干南へ傾く。

24号トレンチ

VI層までの調査。各層の残存状況は割合良く、土器を包含するが、遺構の検出は認められない。旧地形はほぼ平坦。

25号トレンチ

VI層までの調査。包含層に相当する黒色土（II～IV層）は残存するが分層は明確にならない。黒色土中より土器及び扁平碟（赤変あり）が出土するが、遺構の検出は認められない。旧地形はほぼ平坦。

26号トレンチ

VII層までの調査。各層は良好に残存して遺物を包含するが、遺構の検出は認められない。旧地形はほぼ平坦。

27号トレンチ

VII層までの調査。I層は2層に分層され、その直下はIII層となる。以下の土層は良好に残存するが土器の出土は少量にとどまる。遺構の検出は認められない。旧地形はほぼ平坦。

28号トレンチ

VI層までの調査。トレンチの半分ほどに近代上坑（性格不明）が掛かり、遺物の出土、遺構の検出とともに認められなかった。旧地形はほぼ平坦。

第4節 小 結

今回の試掘調査の結果、調査対象地における旧地形は数面の平坦地を形成しながら、北方向から谷のある南方向へ緩やかに傾斜している。土層の残存状況は、畑を形成する際に切土された部分や最も標高が高く削平を受けている最北端部を除いてほぼ良好で、縄文時代後晩期、弥生時代、古墳時代と各時期の遺物を包含するが、トレンチによっては包含層を細分することができない場合もあった。この他の遺物として陶器、磁器等も表土を中心と各トレンチにおいて出土しているが、時期を特定できる包含層を認めるには至っていない。しかしながら、唐人町という小字名が中世遺跡の存在を推測せることもあり、今後なお注意を払う必要があるものと思われる。遺構については時期を特定するには至っていないものの、ピット群や溝状遺構、トレンチの規模では性格の判断できない遺構（竪穴住居跡の一辺?）等が確認された。第2節に前述の唐人町遺跡が道路幅の調査であるにもかかわらず、竪穴住居跡8軒が検出されている事例を踏まえると、位置的に近く、平地統きの今回の調査範囲にも同様に遺構が所在する可能性は大きいものと思われる。

今回の調査は、結果として対象地の外周に止まり、対象地内における遺跡の中心部と目される部分には至っていない。遺跡の所在、ある程度の性格の把握はできたものの、さらなる詳細については第2次調査の結果に委ねたい。

図版4 唐人町・池ヶ迫遺跡トレンチ状況写真



遺跡全 景



1号トレンチ



2号トレンチ



3号トレンチ



4号トレンチ



5号トレンチ



6号トレンチ



7号トレンチ



8号トレンチ



9号トレンチ



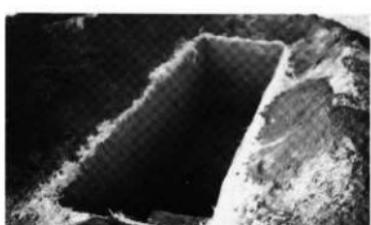
10号トレンチ



11号トレンチ



12号トレンチ



13号トレンチ



14号トレンチ



15号トレンチ



16号トレンチ



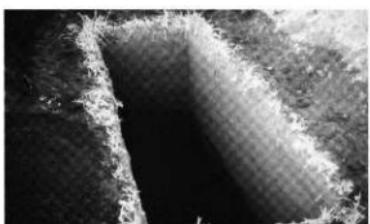
17号トレンチ



18号トレンチ



19号トレンチ



20号トレンチ



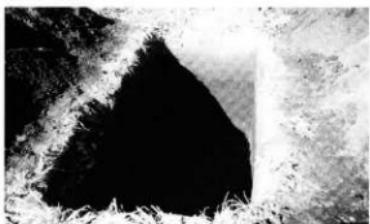
21号トレンチ



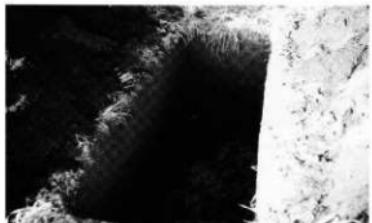
22号トレンチ



23号トレンチ



24号トレンチ



25号トレンチ



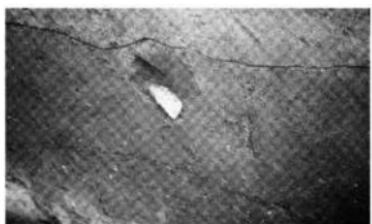
26号トレンチ



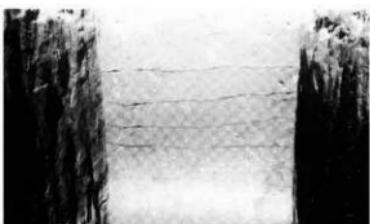
27号トレンチ



28号トレンチ



遺物出土状況



土層状況

図版5 唐人町・池ヶ迫遺跡出土遺物写真



報告書抄録

フリガナ	シナイイセキ
書名	市内遺跡発掘調査報告書
シリーズ名	串間市文化財調査報告書
シリーズ番号	第22集
編集者名	宮田浩二
発行機関	串間市教育委員会
所在地	宮崎県串間市大字西方6524-58番地
発行年月日	平成13年3月30日

フリガナ 所収遺跡名	フリガナ 所在地	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
ヒルムタ 蛭牟田遺跡	クシヤ 串間市大字高松 ヒルムタ 字蛭牟田	31° 27' 00" 付近	131° 10' 30" 付近	20000828 ↓ 20000829	12m ²	携帯電話 鉄塔建設
種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項		
散布地	縄文時代		貝殻条痕上器			
フリガナ 所収遺跡名	フリガナ 所在地	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
タカラツワツチ 高松津口地点	クシヤ 串間市大字高松 ヒルムタ 字蛭牟田	31° 27' 00" 付近	131° 10' 20" 付近	20001017	5m ²	携帯電話 鉄塔建設
種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項		
フリガナ 所収遺跡名	フリガナ 所在地	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
トウジンマチイケガザコ 唐人町池ヶ迫遺跡	クシヤ 串間市大字西方 トウジンマチ 字唐人町字池ヶ迫	31° 27' 40" 付近	131° 13' 10" 付近	20001121 ↓ 20001208	84m ²	病院建設
種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項		
散布地	縄文・弥生・古墳	ピット	突帯文土器・上師器			

串間市文化財調査報告書第22集

市内遺跡発掘調査報告書

2001年3月

発行 宮崎県串間市教育委員会
印刷 (有)串間新生社印刷